

問い合わせ先

交通部企画課企画調査室

主任企画調査官 原田 樹佳

昼間 03-3591-6361(内線6202)

夜間 03-3591-9807

平成19年5月7日

海上保安庁

## 平成18年度通航船舶実態調査について

海上保安庁では、従来から船舶交通に関する安全対策のための基礎資料に活用することを目的として、わが国の主要狭水道や沿岸部の主要海域等を対象とした通航船舶実態調査を実施しています。

このたび、平成18年度の通航船舶実態調査の結果を取りまとめましたので別添のとおりにお知らせします。

なお、特徴は次のとおりです。

1. 主要狭水道別では、明石海峡が832隻(130隻増加)と最も多く、次いで備讃瀬戸東部817隻(54隻増加)、来島海峡730隻(94隻増加)の順となっています。

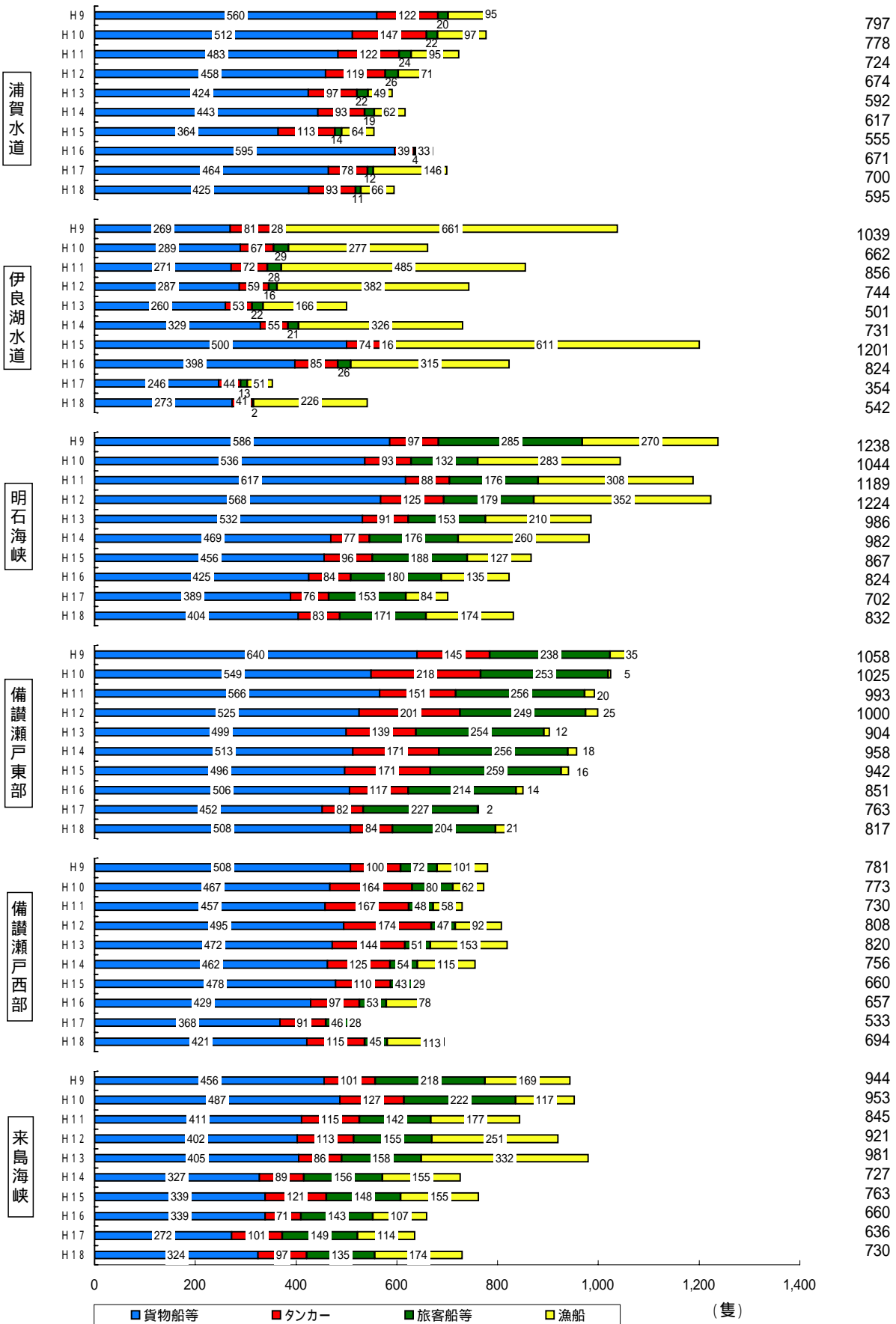
2. 主要狭水道6箇所の通航船舶総隻数は、4,210隻(522隻増加)でした。

1 主要狭水道とは、浦賀水道、伊良湖水道、明石海峡、備讃瀬戸東部、備讃瀬戸西部及び来島海峡です。

2 ( ) は、昨年の通航船舶隻数との比較を示しています。

3 通航船舶隻数は、24～72時間、目視観測した通航船舶隻数の1日の平均隻数です。

# 主要狭水道別通航船舶隻数の推移(1日平均)



「貨物船等」とは、貨物船、えい航船、押航船及びその他(巡視船、自衛艦、独航えい・押航船等)をいい、「旅客船等」とは旅客船、カーフェリー、水中翼船及びエアクション船をいう。

## 主要狭水道(6箇所)における通航船舶総隻数の推移(1日平均)

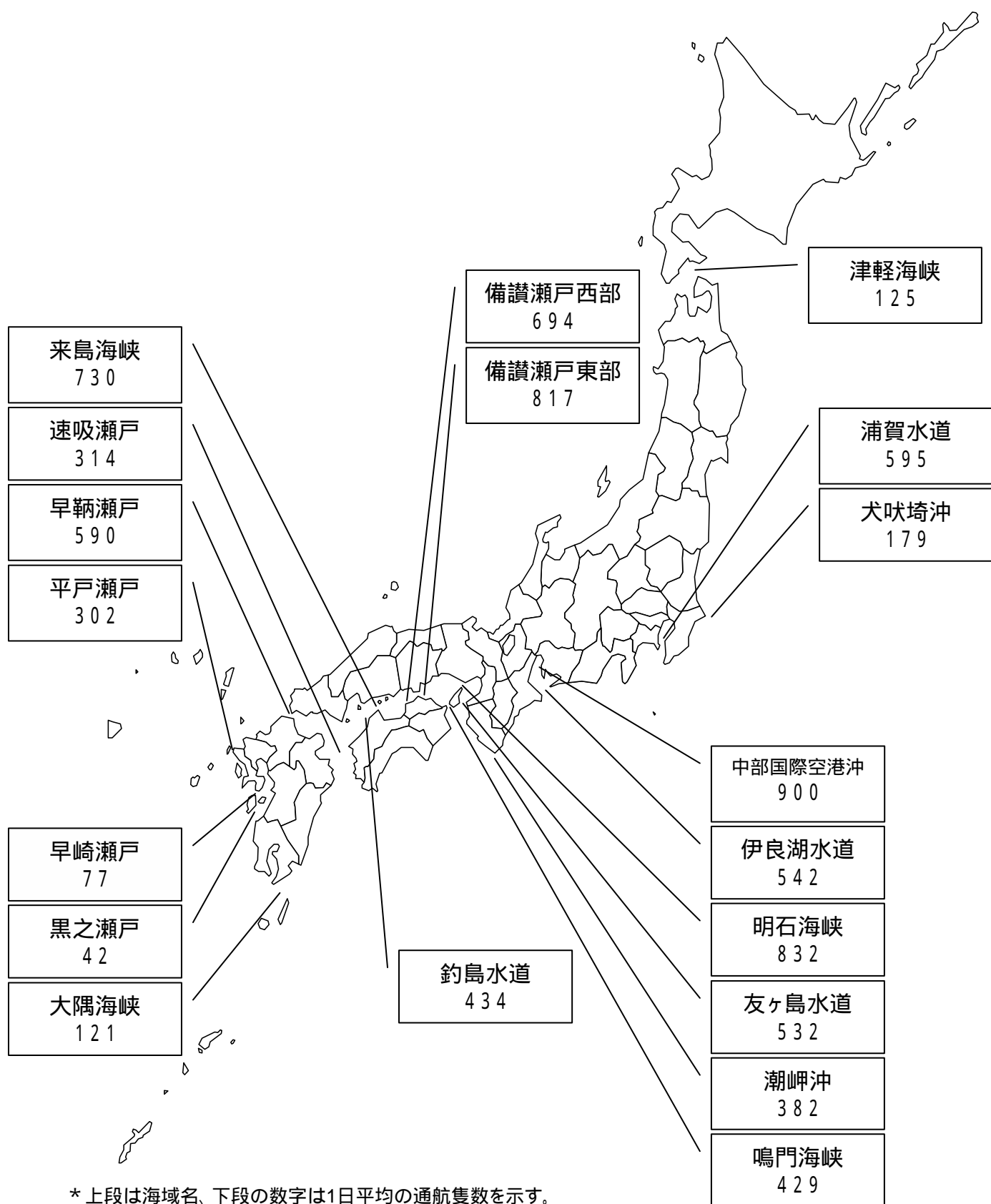


主要狭水道とは、浦賀水道、伊良湖水道、明石海峡、備讃瀬戸東部、備讃瀬戸西部及び来島海峡をいう。

右肩の数字は、目視により観測した6箇所の1日平均の通航船舶隻数の総計を示している。

「貨物船等」とは、貨物船、えい航船、押航船及びその他(巡視船、自衛艦、独航えい・押航船等)をいい、「旅客船等」とは旅客船、カーフェリー、水中翼船及びエアクッション船をいう。

平成18年度 通航船舶実態調査箇所一覧



\* 上段は海域名、下段の数字は1日平均の通航隻数を示す。

平成18年度 観測箇所と観測期間

	観測箇所名	観測期間
1	津軽海峡	8月29日1000～8月30日1000(1日間)
2	犬吠埼沖	11月7日1200～11月8日1200(1日間)
3	浦賀水道	11月13日1200～11月16日1200(3日間)
4	中部国際空港沖	3月8日1200～3月9日1200(1日間)
5	伊良湖水道	11月28日1200～12月1日1200(3日間)
6	潮岬沖	6月28日0800～6月29日0800(1日間)
7	明石海峡	11月27日1200～11月30日1200(3日間)
8	友ヶ島水道	11月27日1200～11月30日1200(3日間)
9	鳴門海峡	11月27日1200～11月29日1200(2日間)
10	備讃瀬戸東部	10月17日1200～10月20日1200(3日間)
11	備讃瀬戸西部	10月17日1200～10月20日1200(3日間)
12	来島海峡	10月17日1200～10月20日1200(3日間)
13	釣島水道	9月4日1200～9月5日1200(1日間)
14	速吸瀬戸	6月30日1115～7月3日1115(3日間)
15	早鞆瀬戸	10月17日1200～10月20日1200(3日間)
16	平戸瀬戸	11月15日1200～11月17日1200(2日間)
17	早崎瀬戸	10月10日1200～10月11日1200(1日間)
18	黒之瀬戸	10月24日1200～10月25日1200(1日間)
19	大隅海峡	9月27日1200～9月28日1200(1日間)